

2019年4月24日発行
日本比較文化学会関東支部

2018年度第3号のレター発行となります。本号では、2019年3月30日（土）に東京未来大学にて開催されました「第50回支部例会」での支部会員の発表要旨、並びに、同日に執り行われました「2018年度関東支部総会」における決定事項を掲載致します。

日本比較文化学会関東支部事務局長 郭 潔蓉

◆第50回関東支部例会 ご報告◆

2019年3月30日（土）、東京未来大学 A棟 204教室・205教室において第50回関東支部例会が開催されました。当日は二つのセッションに分かれ、10名の支部会員による研究発表が行われました。各発表において積極的な意見交換がなされ、大変有意義な合同例会となりました。以下、例会での会員の研究発表の要旨を掲載致します。

◆開会の挨拶: 関東支部長 近藤俊明(東京未来大学)

◆研究発表:

－ セッション A －

1. 日本語は「完了形」と非完了形の2つでどのように時制を表現しているのか

防衛大学校人間文化学科 准教授
木下哲生

英語などヨーロッパ系の言語には現在を基準とした絶対時制の規則が存在し、現在形、現在以前のことは過去形、過去以前のことを表す大過去があり、現在以降のことは未来形がある。一方で日本語には、一般に現在形と呼ばれるものと、過去形と呼ばれるもの（助動詞「た」「だ」を用いて表される）の2つしか存在しない。そのため日本語教育の現場において、欧米系の学生から「日本に来る時にカバンを買いました」の文がなぜ「来る時」の「来る」が現在形になるのか理解できないという質問がよく寄せられる。

これは「た」が古典文法の「たり」が変化してできたものであり、「完了の助動詞」という性格を持つことが原因の1つではないかと考えられる。つまり、日本語の時制は「過去・現在・未来」ではなく、「完了・非完了」で表されている。

そのため、上記の例文の場合、以下の手順で時制を表しているものと考えられる。

- ①主文の動詞「買う」が、話し手の現在を基準として考えた場合、完了した動作であるため「買いました」と完了形とする。
- ②次に話し手は意識を「買う」の時点へと移動させてその時点新たな基準として考える。
- ③「買う」の時点を基準として考えた場合、「日本に来る」という動作はまだ完了していない。そのため

「来る」は非完了形となる。

つまり、現在を絶対的な基準とする欧米系の言語と異なり、日本語は基準を現在および主文の動詞の行われる時と移動させて相対的に時制を考えるシステムを持っているのではないだろうか。

このことから、日本人は「現在」と「主文の動詞の動作が行われる時」「複文の名詞修飾節の動詞の動作が行われる時」の3つの時間を順列で並べ、 $3 \times 2 = 6$ 通りのパターンを考え、言いたい文がどのパターンに当てはまるかを瞬時に判断して発話をしているものと思われる。

2. アメリカの多文化主義と言語政策について:オハイオ州を例として

東海大学 准教授

高橋 強

「One, Out of Many(多からなる一)」という基本理念のもと、アメリカ合衆国を一つに纏め、様々な人種がこの国に住み、共に共生してこの大きな国家を構成している。その変遷は、先行研究においては、「人種のるつぼ」といわれ、その後、この表現は「サラダボウル」と表現を変え、現在においては、「多民族社会」という表現が用いられるようになってきている。それと時をおなじくして多民族からなる人種主義も同化主義から文化多元主義、さらにはアメリカ型多文化主義からポストエスニック多元主義へと移行していった。これに伴い言語政策も時代と共に変化していき、アメリカへ様々な国から移民してきた人々をアメリカ人としてアメリカ社会へ同化させようという目的で始まったESL (English as a Second language) 政策も、当初は非英語話者への英語の習得とアメリカの文化的側面の習得を目指していたが、後に人種間の融合が進み、自分たちのアイデンティティをより鮮明にアメリカ社会でアピールし始めたために、ESLの在り方も変化してきた。現在では、各エスニックグループのアイデンティティを自覚し、そしてそれを保持してアメリカの文化と自国の文化を共に共有して他者を認め合いながら「多からなる一」という社会の中で様々な人種と共に生き、様々な価値観を認め合いながら、お互いの文化や言語を保持しつつ、第二言語である英語を表現方法の重要な手段として習得していくというように変化してきて現在に至っている。

また今回の発表では、オハイオ州を取り上げて発表したいと思っている。この州は伝統的に白人が優位を占める州であり、主にドイツ系などヨーロッパからの移民が多数を占めている州である。現在もこの優位性は変わることがない。しかし最近では、南米からのヒスパニックやラティーノとばれるスペイン語圏からの移民やインド系移民などが増加している。私がかつて留学していたこともあり、オハイオ州の移民政策に興味を持ち、私の母校でもあるオハイオ州立大学の留学生支援やESLの言語政策が目指すところなどについても考察を加えていくものとする。同大学は非常にたくさんの留学生を受け入れており、言語政策を考えるうえで一つのモデルケースと言える。上記したことと関連して、大きな大国アメリカ合衆国におけるオハイオ州の位置づけと全体的な言語政策についても発表することとする。

3. 日英語における人間顕在化・潜在化表現

新島学園短期大学 教授

前田 浩

(1) の日本語を英訳すると、例えば、(2a) や (2b) のように表現できる。

(1) 辞書は棚にしまってください。

(2) a. You can put the dictionary on the shelf.

b. The dictionary can go on the shelf.

(1) のような意味を表す場合、日本語では、通常は省略されるものの、「あなた」、「君」のような人間を主語に据えるのが普通である。一方、英語では、(2a) のように you という 2 人称の人間を主語に据えることもできるし、(2b) のように人間を潜在化させ、物を主語に据えることもできる。

一方、現在地を尋ねる場合、日本語では、(3) のように「場所」を主語に据えて表現するのが普通で、特に文中に人間が言語化されて登場することはない。

(3) ここはどこですか。

これに対して、英語では、日本語と同様に、(4) のように表現することも可能であるが、(5b)、(5c) のように人間を主語に据えた表現を用いるのが普通である。

(4) a. Where is this?

(5) a. Where are we?

b. Where am I?

このように、英語と日本語では、人間を主語に据えるかどうかでその傾向に相違がある場合がある。本発表では、人間を表に出し主語に据える表現を「人間顕在化表現」、人間を表に出さず主語に据えない表現を「人間潜在化表現」と呼び、その選択傾向における日英語間の相違を探ることにする。

4. 空手と仏教との関連性 —スリランカにおける仏教徒の空手学習者の一考察—

早稲田大学 助教
カルロヴァー ペトラ

仏教は武道に影響を与えたとよく言われる。20 世紀前半、沖縄から日本本土に空手を広めた船越義珍も仏教徒であり、空手を著書で紹介するときに、仏教の概念について述べている。特に、空手の「空」を「色即是空。空即是色」から採用したことである。しかし、日本本土の空手道場を見ると、仏壇ではなく、神棚が設置される。しかも、日本では現代化とともに、生活の中の仏教や神道の意義が薄れている。そこで、本研究は仏教の信仰が強いスリランカで、空手と仏教との関連性を明らかにすることを目的とする。

2018 年 8 月に、スリランカの空手学習者 (126 人) に対してアンケート調査が行われた。回答者の 82.6% は、空手の稽古をすれば良い仏教徒になると答えました。それに、「良い空手家の特徴」と「良い仏教徒の特徴」を 5 つ選択する質問の回答は異なった。空手家の特徴として最も選ばれたのは「忍耐力」

(116 人)、「強さ」(90 人)、「誠意」(82 人)、「マインドフルネス」(69 人)、「勇気」(64 人) であった。

仏教徒の特徴最も選ばれたのは「慈愛」(109 人)、「忍耐力」(79 人)、「誠意」(99 人)、「礼儀正しさ」

(62 人) であった。つまり、仏教徒と空手家に最も共通しているのが「忍耐力」と「誠意」であるが、空手家から特に「強さ」、仏教徒から特に「慈愛」が求められている。スリランカの仏教では、慈悲の瞑想がよく行われているからであろう。面白いことに、「マインドフルネス」は仏教徒の特徴より空手家の特徴として選ばれた割合が高かった。マインドフルネスは自己認識や智慧の発達で悟りに導くと言われるが、空手の若い学習者は悟りを目指さず、空手では稽古・試合の時に心身集中力を維持することに必要な忍耐力の方が重視されるであろう。

結論としては、船越は「空」に悟る仏教の考えを空手の修行に繋げたが、スリランカの空手学習者は仏教徒から「忍耐力」を通じて「慈愛」の方を求めていると言えるであろう。

5. 熊希齡の生涯と北京香山慈幼院の設立と展開

お茶の水女子大学 基幹研究院研究員
大江 平和

中国の慈善事業の歴史は古いが、現代の社会事業につながる起源は清末、民国期に求められる。なかでも、1920年代は中国の社会福祉の主流が慈善事業から社会事業へ移行する重要な過渡期とされている。現代中国の社会福祉についてより全面的に把握し、その基本的な構造や機能を解明する上で、その起点となる民国期の慈善事業研究は必要不可欠であろう。そこで1920年代中国の社会福祉のあり方の解明を目指し、当該期北京で慈善教育事業を行っていた香山慈幼院という孤児院を事例として検討する。当院を設立し院長としてその中心的役割を担った熊希齡という人物を考察したあと、当院の設立から展開を跡づけることで、慈善事業から社会事業へ移行する過渡期の実態を解明することを試みる。熊希齡の生涯は、政治家として活躍した前半生と、政治の世界から退き、慈善活動に身を投じた後半生とに分けられる。熊希齡の特色としては次の点が挙げられる。

第一に、教育に対する強い関心である。

第二に、熊希齡が作り上げてきた広い人脈である。

第三に、緻密な実務能力である。

第四に、国家と社会に対する考え方である。

熊希齡の代表的な事業である北京香山慈幼院の最大の特徴は、学校、家庭、社会の「三位一体」という教育システムの実践であった。生徒数が増加の一途をたどるなか、香山慈幼院は、慈善教育を行う学校から、新しい試みの教育実験学校への変化を遂げていった。熊希齡自身は香山慈幼院を社会事業ととらえていた。董事には銀行関係者など有力者を迎え、また、養蒙園から大学までの一貫教育システムを構築しようという意欲と構想をもっていたが、資金難によって阻まれた。香山慈幼院は養育と教育を兼ね備えた、先駆的な慈善機構であったと同時に、多くの共産党員を生み育て、革命家を輩出していった摇篮でもあった。香山慈幼院は約30年にわたって、約6,000名の卒業生を社会に送り出したが、なかには新中国の部長という大きな立場に就いた者もいたことは、香山慈幼院の教育の成果を示すものである。香山慈幼院は、伝統的な儒教にもとづく徳育を重視しつつ、近代的な教育手法、とくにアメリカの教育手法を導入し、中国独自の教育実験を試みた。それは民国期において慈善史、教育史、社会事業史において画期的な実践であったといえる。

－ セッション B －

1. 百田尚樹著『日本国紀』騒動誌観記 - インターネット上の言説から考える「反実証的歴史学」の動向 -

県立所沢西高等学校 教諭・向野堅一記念館 館長
向野 正弘

百田尚樹著『日本国紀』(幻冬舎、2018.11.12)は、「平成最後の年に送り出す、日本通史の決定版！」とのキャッチコピーで、刊行前から人気を博し、2019.2の段階で65万部の販売部数を達成した。一年

かからずにできたという通史書とは、どのようなものか。怖くてまだ読めていない。インターネット上では、賛否をめぐって、活発な議論が繰り広げられ、興味深く視させていただいた。論題を「茫観」と記したのは、茫然と観ていた、ということである。ちょうど、「非実証的歴史学」の歴史教育への波及について検討し、あわせて「非実証的歴史学」を歴史教育に利用する際の留意点を検討した時期であり、その後、議論の深まる過程で、歴史教育を意識した書であることが明らかになるとともに、どうやら「非実証的歴史学」というよりも「反実証的歴史学」とでもいうべき書であると感じるに至った。

インターネット上では、批判するなら、読んでからにして欲しい、という趣旨の意見も多く拝見した。評者も機会を見て講読しなければならぬと考えている。ここでは、あくまでもインターネット上の議論によりつつ、整理して、後の講読の機会に備えようと思う。

- I. 百田尚樹著『日本国紀』を考える際の基本的な立脚点
- II. 歴史学・歴史教育から見た『日本国紀』をめぐる論点
- III. 『日本国紀』作成の経緯をめぐって
- IV. 「反実証的歴史学」の主張

2. *Harry Potter and the Deathly Hallows*における死者の役割

—三浦哲郎『ユタとふしぎな仲間たち』との比較—

創価大学大学院 博士課程後期

木下 律子

J. K. Rowling は *Harry Potter* シリーズにおいて、「みぞの鏡」や「肖像画」、「ゴースト」などを通し、死者との交流を様々な方法で可能にしている。シリーズ最終巻 *Harry Potter and the Deathly Hallows* (2007) では、主人公の Harry が「蘇りの石」を使い、彼の亡くなった両親や恩師たちとの再会を果たす。そして彼らとの絆を確信し、死の恐怖に立ち向かう勇気を持って生きることを決意する。

死後の世界について Rowling は、“I do believe in an afterlife”¹と述べているが、*Harry Potter and the Deathly Hallows* における死後の世界の構造については明確に述べていない。そのために、Harry の両親たちはゴーストとは異なるが、具体的にどのような存在であるのかについて、物語では明らかにされていない。

一方、三浦哲郎の『ユタとふしぎな仲間たち』(1984)では、ゴーストではない死者の存在として「座敷わらし」が登場する。彼らは、「あの世」にも「この世」にも属さない者たちであるが、主人公のユタに対し、生きている人々以上に影響を与える存在である。Harry が死者たちとの交流によって成長を遂げたように、ユタもまた死者たちとの交流を通して成長し、友情を育むのである。

本発表では、*Harry Potter and the deathly Hallows* と『ユタとふしぎな仲間たち』における死者との交流を比較し、死者の役割と主人公に与える影響の共通性について考察する。

¹ “JK Rowling admits that she believes in life after death”. THE SCOTSMAN. 2008-10-2.
<https://www.scotsman.com/news/jk-rowling-admits-that-she-believes-in-life-after-death-1-1274362> (参照 2019-03-01)

3. エドゥアール・マネにおける芸術表現と身体性 —フーコーとバタイユの考察を通して—

名古屋大学大学院人文学研究科 博士後期課程

川里 卓

本論文の目的は、フランスの哲学者ジョルジュ・バタイユ(1897-1962)およびミシェル・フーコー(1926-1984)が執筆した、フランスの画家エドゥアール・マネ(1832-1883)論の検討を通して、マネの絵画を身体性という観点から検討することである。

フーコーはマネの絵画の独自性が、絵画が表象する内容の斬新さにあるのではなく、絵画が描かれたキャンバスの物質性を示している点にあると考える。伝統的な絵画では、キャンバスの物質性が透明なものとして存在するために遠近法など様々な方法が用いられた。一方で、マネの絵画では、その知覚/身体の透明性は破壊され、絵画における知覚/身体の存在が明確化されている。

バタイユは、マネ以前の絵画が、神話などの観念的世界を、絵画の表象を通して示していたとするのに対して、マネの絵画はそのような概念を排除し、知覚に現前する対象の姿を表現していると考ええる。すなわち、印象派などマネ以降の絵画は、意味の不在すなわち概念を介さない対象の表現を追求し、個々の芸術家の知覚表象が表現の対象となった。言い換えれば、マネにはマネの知覚、シスレーにはシスレーの知覚が存在し、各々の芸術家の知覚/身体に基づいた知覚が、直接的にマネやシスレーらしい絵画の特徴に結びつく。つまり、各々の芸術家の知覚/身体の固有性が、それぞれの芸術表現の独自性につながる。要するに、バタイユは、マネや印象派の絵画の登場から、知覚を覆っていた様々な神話的概念が排除され、透明になった知覚/身体の働きを通して、対象の存在すなわち「神聖な形象」が作品において示されると考える。このように、フーコーとバタイユのマネ論には、マネの絵画が鑑賞者の現在の身体性に気付かせる特徴が読み取れる。

4. サンフランシスコ公立小学校日英バイリンガル教育 JBBP の言語・文化教育の課題

東京未来大学 教授

田中 真奈美

次世代に日本語とその文化の継承・発展を願う日系アメリカ人のコミュニティーの代表者でもあった創立者たちの働きかけにより、1973年8月にサンフランシスコ教育委員会は、日本語バイリンガル・バイカルチュラルプログラムの設立を許可した。

教育の柱のなかで、日本語学習に関連するものは、1) 英語での基幹科目の指導を中心としながら、1日1時間の日本語授業、2) 最良の実践と連邦ならびに州の基準に基づき、日本語能力の習熟基準の達成、3) 学校での終日の生活を通して、クラス担任の協力による学年レベルに応じた日本語力の強化、4) 多文化社会の理解を踏まえつつ、日本語と日本文化、日系アメリカ人の歴史の理解と感謝の保持である。

日本語指導と文化指導は、「先生」と呼ばれるネイティブが担当している。文化指導は、担任の協力を得て、1年を通して様々な取り組みをしている。学芸会、運動会、正月、ひな祭り、こどもの日などの日本の行事を行い、サンフランシスコ日本町のイベントにも参加している。

JBBPの主な課題は、教育資金、日本語の学習時間、日本語指導員である。サンフランシスコ学校区にある公立の小学校であるため、州や市の教育予算の縮小の影響を受けることもよくある。特に日本語指導に関する教材は高額なことが多い。そのため、保護者が資金集めのために様々なイベントを行っている。

4、5年生になると、州や市の必修課程に沿った英語の学習内容も高度で多量のため、十分な日本語の

学習時間を確保できないことは、日本語指導員も問題だと認識している。そのため、英語の科目内容と合わせてチームティーチングを行うなどの工夫をしている。

日本語・文化を指導する「先生」の雇用も課題である。予算的なこともあり、指導熱心な先生を長期で雇用することは難しく、学校区の採用条件も厳しくなっている。保護者会が様々な努力をしているが、なかなか解決できない課題である。

5. 露伴の人生論とその文学観 —『努力論』を中心に—

宇都宮大学大学院国際学研究科 博士課程後期
梁 鎮輝

幸田露伴の『努力論』は明治45(1912)年7月23日に東亜堂書房によって刊行された。明治41(1908)年から明治44(1911)年にかけて『成功』雑誌に寄稿した8篇(「運命と人力と」「自己革新論」「幸福三説」「修學の四標的」「凡庸の資質と卓絶の事功と」「接物宜従厚」「四季と一身と」「疾病 説」「靜光動光」と、初出未詳の2篇(「着手の處」「努力の堆積」)に、刊行時に書き下ろした2篇(「進潮退潮」「説氣 山下語」)、計12篇の文章からなる。単行本の序には「努力に関することが多いから、此の書を努力論と名づけた」とある。

その名の通り、当時の人々に努力に対する考え方、またその仕方と方向を説いているもので、修養書とされてきた。『成功』雑誌との関係が深かった点から、明治期の立身出世という思潮の産物として捉えられることも多い。内容的には道教系の養生術・気などの東洋思想と、機械論・エネルギー論などの西欧科学に基づく近代思想が織り混ざっている。世俗的な「立身出世」より一個人としての精神的円満を追求する指南書であると同時に、取り巻く社会の環境にまで論及し、近代化の潮流で個人と国家のあり方についての思索が窺える。

鈴木貞美(2009、2011)は露伴の『努力論』を「近代の弊害に対して伝統思想をベースに、西欧近代思想の様ざまをよく検討、咀嚼して組み合わせた『近代の超克』と呼ぶにふさわしい考えだった」と評した。筆者も大まかにその考え方に賛成する一方、露伴の人生論とその文学世界を分けて論じるだけでは不十分であると考えている。従って本発表は露伴の文学観を切り口として、露伴の文学世界における『努力論』の意味、および他作品との繋がりについて考察を試みる。

◆閉会の挨拶： 関東支部副支部長 高橋 強 (東海大学)

以上

*閉会后、2018年度関東支部総会を開催した。

◆2018年度 関東支部総会 ご報告◆

- (1) 議長選出
満場一致にて、関東支部副支部長 花澤聖子（神田外語大学）が議長に選任された。
- (2) 総会開会の辞 議長 花澤 聖子（神田外語大学）
- (3) 2018年度会計報告 関東支部事務局長 郭 潔蓉（東京未来大学）
会計報告の詳細は、後日学会HPに掲載予定。
- (4) 2019年度人事案 関東支部長 近藤 俊明（東京未来大学）
- ・ 2019年度は、2018年度に改選された役員人事を踏襲することが確認された。
 - ・ 会計監査担当については、任期中の三浦 幸子（都留文科大学）が2019年度に海外研究のため、交代人事の必要があるとの報告がなされた。
 - ・ 会計監査担当の交代人事については、審議により、関東支部執行部の推薦に一任することが確認された。
 - ・ 紀要編集委員担当については、任期中の鈴木 宣行（創価大学）の定年退職に伴い、2019年度より紀要編集委員補助担当の金塚 基（東京未来大学）に担当が変わるとの報告がなされた。
 - ・ 新たな紀要編集委員補助の人事については、審議により、関東支部執行部の推薦に一任することが確認された。
- (5) 2019年度活動計画 関東支部長 近藤 俊明（東京未来大学）
- ① 国際学術大会 2019年5月18日（土）同志社大学
 - ② 関東・東北合同支部例会 2019年9月（予定）関東にて開催
 - ③ 関東支部例会・2019年度総会 2020年3月（予定）